

外部点検シート(イメージ) 説明用資料

内部点検

外部点検

⑤進捗率(年度)	→	⑦指標毎の評価(年度)、⑧指標毎の得点(年度)
80%以上	→	A 100点
60%以上80%未満	→	B 80点
40%以上60%未満	→	C 60点
20%以上40%未満	→	D 40点
0%超え20%未満	→	E 20点
0%	→	F 0点

⑨施策ごとの平均得点(年度)	→	⑩2次施策評価(年度)
80点以上	→	順調
60点以上80点未満	→	概ね順調
40点以上60点未満	→	やや遅れている
20点以上40点未満	→	遅れている
20点未満	→	大きく遅れている

基本目標	政策	通し番号	施策	施策に関する目標達成指標	指標の単位	現状(R1)	R3実績	R3目標	R7目標	進捗率(年度)	進捗率(計画期間)	指標毎の評価(年度)	指標毎の得点(年度)	施策ごとの平均得点(年度)	2次施策評価(年度)	【改革案①】R5施策別方針案	【改革案②】R5に新規実施を検討している事業の概要	【改革案③】R5に継続事業で改善実施を検討している事業の概要	重点課題プロ	時勢対応	R5年度方向性案	総合計画審議会からの提言(取組や手法の改善策など)
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
基本目標1 未来社会で 輝く子どもを 育むまちづくり	(1)子育て・ 親育ちの 支援の充実	1	施策① 安心して 生み育てら れる環境の充 実	待機児童数	人	74	20	18	0	96%	73%	A	100	100	順調	■待機児童数及び入所保留児童数を縮減させるため、保育人材確保事業や定員増を図る施設への支援を実施し、コロナの影響による保育所等利用控えの反動に対応していく。 ■ひとり親家庭等の子どもたちが心身ともに健やかに成長するため、家計安定のための支援を推進する。	■受け皿整備及び保育人材確保事業の実施 ■新たな保育施設の設置 ■保育士家賃補助 ■保育士奨学金助成	■ひとり親家庭等日常生活支援事業			現在の成果水準を維持する 施策	-
				児童扶養手当受給者で就業を希望する人のうち、就職に結びついた人の割合	%	52.6	80.0	70.0	80	157%	100%	A	100									
				保育所などのサービスが充実していると思う市民の割合(市民満足度調査)	%	26.5	27.6	27.6	40	100%	8%	A	100									
		2	施策② 妊娠 から出産・子 育ての切れ目 ない支援	子ども家庭相談のうち、児童虐待相談の割合(福祉行政報告例)	%	39	39	39	37	100%	0%	A	100	67	概ね順調	■児童虐待の防止及び母子等の福祉の向上のため、適切な指導・助言・支援を行う人材の確保及び市民啓発を推進する。 ■安心して子どもを生み育てられる環境を整えるため、子育て世代包括支援センターの機能を強化し、施策推進の柱とする。また、妊婦や乳幼児の健康診査や保健指導を充実させ、子どもたちの健やかな成長を支援する。	■先天性難聴の早期発見のため、申請時に対し産科医療機関等で行う「新生児聴覚スクリーニング検査事業」の助成開始	■子育て世代包括支援センターの機能強化 ■「養育支援訪問事業」の充実 ■児童虐待防止に関する啓発・広報活動の強化 ■人材確保のための会計年度任用職員の処遇改善			現在の成果水準を維持する 施策	-
				病児・病後児施設の満室断り数	件	4	4	0	0	0%	0%	F	0									
				安心して子どもを生み育てられる環境が整っていると思う市民の割合(市民満足度調査)	%	41.0	41.0	41.0	45	100%	0%	A	100									
	(2)保育・ 学校教育 の充実	3	施策① 家庭 や地域と連携 した教育の充 実	学校と保護者、地域住民とで、学校の課題や目標を共有し協働・連携の取組を行った学校数(コミュニティ・スクール進捗状況評価結果)	校	15	15.5	17	22	25%	7%	D	40	40	やや遅れている	■学校間の横のつながりの強化や、学校・家庭・地域の三者連携によるコミュニティ・スクールの取組の活性化により、教育活動を充実を図る。		■コミュニティスクール推進事業において、「熟議」を年1回開催から2回開催に変更する。 ※「熟議」とは、地域の方と子どもがテーマに沿って話し合う活動 ※子どもサミットを活用し、九六の教育研究チーム等とコラボし、フィールドワークから「いしまの本当の課題」を発見し、その解決方法を全小中学校で考える。 ※1回目は取組の構築、2回目は実践結果等の共有			成果の向上を目指す 施策	投資効果が薄いため、「九大寺子屋事業」「いししま学推進事業」の統合を検討するなど、コストの増大を抑えつつ、成果の向上を図りたい。
				学力テストで、「概ね到達」以上の児童生徒の割合(市の学力テストの到達度評価で、3段階の2以上、5段階の3以上)	%	76.7	77.0	80.0	85	9%	4%	E	20									
				ほぼ毎日、コンピュータなどのICTを授業で活用している児童生徒の割合(学習状況調査児童生徒質問紙で「活用した」と回答)	%	3.7	10.0	80.0	100	8%	7%	E	20									
		4	施策② 児童・ 生徒の学力や 体力の向上	英検3級以上を取得している中学3年生の割合	%	23.9	24.0	25.0	35	9%	1%	E	20	28	遅れている	■糸島をはじめ世界の文化・芸術に親しむ活動により、豊かな心と表現力を育む情操教育を推進する。 ■学習者用パソコンや学習ソフト、校内通信ネットワークなどのICT環境を整備し、児童生徒の個々に応じた最適な学習を進め、学習内容の定着や体力の向上を図る。 ■日常の授業や学校生活の中で、学習者用パソコン等のICT機器や英語を使用する機会を増やし、時代の変化に対応出来る力を育成する。	■職員室無線LAN整備事業で、教職員が職員室で学習用端末により教材作成を行える体制を整備する。 ※現在、職員室には校務用PC用の有線LANコンセントのみしかない。	■英語教育充実事業において、小学校3・4年生児童に対してオンライン英会話を実施する。 ■一人一台端末整備事業において、年度毎の児童生徒増に合わせてタブレット等を購入する。 ■GIGAスクールサポーター配置事業の終了(7月)に伴いICT支援員の増員を行う。 ■ICT活用推進事業において、学習ソフト「ミライシード(ベネッセ)」を本格的に導入する。			優先的な投資により成果の 引き上げを 目指す 施策	ICT分野については、民間活力の積極的な導入を進め、成果の向上を図りたい。 加えて、災害などによる休校を見据え、オンライン授業実施のための態勢構築を早期に図りたい。
				「自分には良いところがある」と思っている児童生徒の割合(学校状況調査で、4段階の3以上)	%	74.5	74.0	72.0	80	20%	-9%	D	40									
				運動部やスポーツクラブ以外で運動することがある児童生徒の割合(運動習慣等調査で、「よくある」と「ときどきある」と回答)	%	71.3	71.5	72.0	80	29%	2%	D	40									
5	施策③ 特別 支援教育の充 実と楽しい学 校生活の創出	発達に関する相談や通級による指導を受けることができる箇所数	箇所	10	10.0	11.0	12	0%	0%	F	0	0	大きく遅れている	■「楽しい学校生活を送るためのアンケート」(Q-U調査)の定期的な実施により、学校生活での課題を発見し、課題解決のための支援を行う。		■Q-U調査の調査結果を反映した取り組みの成果及び課題を学校生活環境多面調査を使って検証し、取組の教育的効果を高める。 ※学校生活環境多面的調査:学級の支持的風土を調査するもので、福岡県教育委員会より配布されるもの。			優先的な投資により成果の 引き上げを 目指す 施策	成果の遅れを取り戻すため、新規事業の立ち上げや既存事業の拡充など、あらゆる取組を総動員し、成果の向上を図りたい。		
		不登校対応指導の結果、登校する又はできるようになった児童生徒の割合	%	30.5	30.5	30.0	50	0%	0%	F	0											
		Q-U調査による学校生活への満足度	%	54.9	54.9	57.0	60	0%	0%	F	0											

外部点検シート(イメージ) 説明用資料

内部点検

外部点検

⑤進捗率(年度)	→	⑦指標毎の評価(年度)、⑧指標毎の得点(年度)
80%以上	→	A 100点
60%以上80%未満	→	B 80点
40%以上60%未満	→	C 60点
20%以上40%未満	→	D 40点
0%超え20%未満	→	E 20点
0%	→	F 0点

⑨施策ごとの平均得点(年度)	→	⑩2次施策評価(年度)
80点以上	→	順調
60点以上80点未満	→	概ね順調
40点以上60点未満	→	やや遅れている
20点以上40点未満	→	遅れている
20点未満	→	大きく遅れている

基本目標	政策	通し番号	施策	施策に関する目標達成指標	指標の単位	現状(R1) ①	R3実績 ②	R3目標 ③	R7目標 ④	進捗率(年度) ⑤	進捗率(計画期間) ⑥	指標毎の評価(年度) ⑦	指標毎の得点(年度) ⑧	施策ごとの平均得点(年度) ⑨	2次施策評価(年度) ⑩	【改革案①】 R5施策別方針案 ⑪	【改革案②】 R5に新規実施を検討している事業の概要 ⑫	【改革案③】 R5に継続事業で改善実施を検討している事業の概要 ⑬	重点課題プロ ⑭	時勢対応 ⑮	R5年度方向性案 ⑯	総合計画審議会からの提言 (取組や手法の改善策など) ⑰	
基本目標6 快適で住みやすいまちづくり	(5)環境の保全	51	施策② 再生可能エネルギーの推進と循環型社会の形成	公共施設へのクリーンエネルギー及び省エネ設備導入施設数	施設	36	38	38	46	100%	20%	A	100	100	順調						●	優先的な投資により成果の引き上げを目指す施策	(仮)カーボンニュートラル基金を財源とした事業展開を企画し、成果の引き上げを積極的に図りたい。
				市民の1日1人当たりのごみ排出量	g	937	936	936	928	100%	11%	A	100										
				ごみの資源化率	%	25.1	26.0	25.3	26	450%	100%	A	100										
重点課題プロジェクト	重点課題: 防災・減災	60	市民一人ひとりの防災力が高いまち“いとしま”プロジェクト	家族で災害時にどう行動するか、避難や連絡などのルールや方法を決めている市民の割合(市民満足度調査)	%	32.4	32.6	33.0	51	33%	1%	D	40	70	概ね順調					●	優先的な投資により成果の引き上げを目指す施策	引き続き、経営資源(財源と人材)を積極的に投下し、成果の引き上げを図りたい。 なお、防災教育プログラムの開発に当たっては、既存の取組内容との重複がないよう、留意されたい。	
				防災マイスター登録者数	人	0	3	3	15	100%	20%	A	100										